

# 大雪山の素顔

## 快晴と風紋の旭岳

世界有数の強風地帯ともいわれる大雪山では、雪面に強い風が吹き付けてできる風紋（通称シュカブラ）がよく見られます。「風紋（ふうもん）」とは、風が強く吹く雪山などで形成される波状の雪のかたまりを意味します。日本の山用語では「雪紋（せつもん）」とか「風雪紋（ふうせつもん）」などとも言われるようです。風紋は自然が作ってくれた芸術品であり、すべての芸術品は唯一無二の存在です。

晴れた日にロープウェイで標高1,600mの姿見駅まで上がると、快晴と風紋の旭岳が目の前に現れました。風によって削られた風紋が大自然の芸術品です。スノーシューを履いて少し歩いたら、噴気孔も目に入ってきました。

台湾出身の私は、初めてこんな風景を見てもすごく感動しました。台湾の高い山にもたまには雪が降りますが、量は少なくそんなに積もっていませんので、綺麗な雪の風紋は今まで見たことがありませんでした。台湾から来てもう半年くらいになりますが、毎日旭岳を見ていても、毎回違う姿の旭岳が現れます。本当に面白くて心が癒されますね。

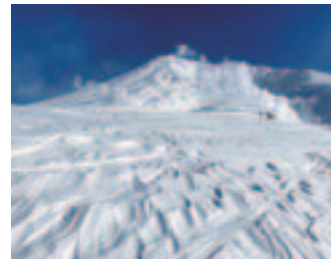
みなさまも是非行ってみてください。旭岳



Nature Column (ネーチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。

ビジターセンターではスノーシューのレンタルも行っていますので、お気軽にお問い合わせください。楽しんでいただければ幸いです。

5月になると雪が硬くなっていて、歩きやすいです。ただし、気温が上がってくると雪の中からブッシュが出てきて足をとりますので、十分注意してください。また、晴れている日も、天候の急変に注意して、暖かい服装をご用意してお越しください。



旭岳ビジターセンター 王 柏関



ロシアと言えば「マトリョーシカ」が思い浮かぶのではないのでしょうか。マトリョーシカは胴体の部分で上下に分割できる人形で、中には一回り小さい人形が入っています。その中にまた小さい人形が...というように、人形の中からまた人形が出てくる「入れ子構造」になっています。入れ子にするため腕は無く、胴体とやや細い頭部からなる筒状構造です。5〜6重程度の多重式である場合が多いです。

マトリョーシカの歴史は1890年から始まりました。実は、マトリョーシカのアイデアは日本から来たと言われているそうです。おもちゃ工房の店主の奥様・マモントフ夫人が日本から持ち帰った福祿寿（ふくろくじゅ）七福神の「柱」の木の人形がマトリョーシカの原型です。マモントフ夫人は、19世紀からマトリョーシカを木で作りはじめました。福祿寿（男性）だったのを女性型にして、表面にはロシアの赤い伝統的な服装を描きま



## ロシアの「マトリョーシカ」

東川町国際交流員 (CIR)  
キロウア・アイタリー

した。

「マトリョーシカ」という名称は、マトリョーナというロシアの女性名にちなんでいます。マトリョーナという子どもを呼ぶ時の愛称がマトリョーシカだったため、このおもちゃもマトリョーシカという呼ばれるようになりました（ロシア語の「シカ」は日本語の「ちゃん」に相当）。子どもの論理的思考を高め、運動にも非常にいいおもちゃとして人気で、多くの家族で流行るようになりました。

一年後には全国で作られるようになり、製造の中心地ザゴルスク町でトレーニンググワークショップが開始されました。ここではマトリョーシカに似たような人形も開発されました。上下を両方丸くし、倒れないように下のところに重しを入れた、いわゆる「おきあがりこぼし」です。

その後、マトリョーシカは1900年から外国、特にヨーロッパで人気になりました。初めてマトリョーシカが外国に紹介されたのはパリの展覧会です。その時から、マトリョーシカの生産はずっと今まで続いています。現在ではチョコでできたマトリョーシカなどもあります。表面の絵もさまざまで、大統領の顔だったり、有名人だったり、歌手や俳優などもあります。

ロシアにはマトリョーシカの博物館もあり、その歴史と昔のさまざまな姿も見られます。まさかロシアの有名な民芸品・マトリョーシカが日本生まれだったというのはびっくりですよね。